

---

# 和風花伝

南方廻音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

和風花伝

### 【Nコード】

N8573X

### 【作者名】

南方迴音

### 【あらすじ】

花をモチーフにした登場人物がでてきます。ちよつとファンタジー。

登場人物達の出来事を思い付きでかいてます。

「ごめんねえ。狭い部屋で。」

百合奈が泊まることになったのは彼岸の部屋だった。

女の子らしい整理された部屋は百合奈と魅薔薇の部屋とは大違いだ。

清潔感溢れる白いカーテン。木製の勉強机、床には布団が二つ並べられており、普段そこにあるのだろう小さいこたつ机が壁に立て掛けられている。

「いえ。綺麗な部屋ですね。」

百合奈の部屋は魅薔薇と共有なのでいくら百合奈が片付けても魅薔薇がすぐ散らかすので常に汚ない。

「そうかしら。素っ気ない部屋でしょ？」

「汚ないよりましですよ。」

百合奈はため息をついた。

きっと百合奈がいない間に魅薔薇はさらに部屋を散らかしているのだろう。

あの人は散らかすだけ散らかして片付けないのだ。

「百合奈ちゃんも苦労してるのね。」

百合奈の心情を察して彼岸もため息をついた。

彼岸も彼岸で魅薔薇について色々苦労しているらしい。

あの人はかなり自己中でめちゃくちゃな人だから、周りの人間は物凄く苦労してるのだ。

当事者が言ってるんだから間違いない。

「まあ。寝ましようか。」

気を取り直した彼岸が言った。

「ええ。」

百合奈と彼岸は布団につく。

散らかっていない部屋はなんとも寝心地がいい。

「おやすみ。」

「おやすみなさい。」

言ったと同時に明かりが消えた。  
微かな話声はまだ止んでいない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8573x/>

---

和風花伝

2011年10月23日19時18分発行